

セント・アンドリュース大聖堂

シンガポール



ようこそ、いらっしやいました

かつて私たちは皆、神から離れていました。神は、遠く離れた、関係を持たない存在のようでした。神とはなだめたり、静めたりしなければならないという考えを抱いている人もいました。神は私たちには手の届かない存在なので、私たちは神の奴隷のようなものだと考えたりしました。神など存在しない、存在するなら我々の敵だと考える人もいました。

けれども、私たちは生きている神に出会いました。イエスキリストによって、そして神の言葉である聖書を通してです。神は天地を創造し、全宇宙の命の唯一の源でありながら、私たちを愛し、私たちを神の子供として迎えるために探しておられるのです。だから、私たちは神を「お父さま」と呼びます。

多くの人は、人間のお父さんを経験しているけれども、天のお父さまは、それを遥かに上回るお方です。私たちを完全に愛しているのです。神は私たちに対して持っているご計画を知っており、このご計画は最善です。教え、導き、鍛錬してください。疲れ果ててしまわないように神様の大きな愛で支えてくれます。神の深い思いやりは尽きることがありません。裏切ることがなく、信頼でき、全身全霊で礼拝するにふさわしいお方です。

祈りとは、神と親しい交わりをするときです。

この大聖堂は、慌ただしい街の真ん中で、少し時間を取って神のもとに来て座る、そんな空間を提供してくれます。心の中にある後悔や痛みをそのまま神に話し、自分の失敗や過ちも正直に告白してよいのです。そして神の赦しと恵みを求め、新たなスタートを始めることができます。また、心の中の不信仰を拭い去ってください、神に信頼を置く一步を踏み出す勇気をください、とお願いすることもできます。神は謙遜な心、悔いる心を持つ人を遠ざけたりなさいません。

神はあなたのそばにおられます。

...口でイエスは主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。

実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです。

聖書にも、「主を信じる者は、だれも失望することがない」と書いてあります。

「主の名を呼び求める者はだれでも救われる」のです。

聖書：ローマ人への手紙10章9節-11節、13節



説教壇とコヴェントリーの十字架

神の御言葉は、1889年にスリランカで作られたこの説教壇から説かれる。説教壇の後ろの壁にある十字架はコヴェントリーの十字架と呼ばれる。これは第二次世界大戦中の1940年に爆撃で破壊されたコヴェントリー大聖堂の廃墟から取られた釘で作られたものである。世の罪を赦すために、神がひとり子イエスキリストを死ぬべくしてこの世に送った、この神の愛を象徴するのが十字架である。キリスト教の教えは、この神の愛を土台にする



ルルド（壁装飾画）と降誕チャペル

東の窓のところにあるルルド（壁装飾画）はイタリア製で雪花石膏のモザイク画である。ベツレヘムでのキリスト誕生を描いたこのルルドは建築家レジナルド・ブロンフィールド氏がデザインしたもので、1905年にホース主教夫人を記念して捧げられた。



主の食卓

聖公会の礼拝における2つの中心的柱とは、「御言葉」と「聖餐」である。イエスキリストが「私の記念としてこれを行いなさい。」と命じたのに従って、聖餐式が執り行われる。聖餐式では、キリストを信じる者たちが主の食卓を囲んでパンを食し、ワインを口ににする。このパンとワインは、世の罪を赦すために多くの人のために裂かれたキリストの体と、流された血を象徴する。この聖餐式を執り行うときに教会は、十字架の上で捧げられた犠牲のキリストだけが、私たちの罪を赦すたった一つの、完全なものであることを心に刻み、明言し、そしてキリストの再臨を待ち望むのである。



東の窓

中央小窓は近代シンガポールの創建者、スタンフォード・ラッフルズ卿の記念として1861年に奉献された。北側小窓はシンガポールに住んでいた（1823年～1826年）ジョン・クロフォード博士を記念して、南側小窓は元総裁（1843年～1855年）のウィリアム・バターワース少将を記念して作られた。各人の紋章はステンドグラス窓の上方に見られる。



洗礼盤

イエスキリストを信じる者は洗礼を受けてキリストの体の一部となる。クリスチャンはイエス様を信じ、従うことを公に告白するのである。身廊正面入口に洗礼盤が置かれているのは、キリストを信じて、水で洗礼を受けなさいという神の命令に応答することによって人は神の御国に入る、ということを表している



主教座

主教は聖公会のシンガポール教区にある全教会の長であり最高司牧者である。この主教が礼拝を執り行う際に座するのが主教座である。この主教座はカテドラとしても知られており、当教会がカテドラル（大聖堂）と呼ばれるのは、当教区の他教会にはない主教座があるためである。



パイプオルガン

当初のパイプオルガンはイギリスのJ.W.ウォーカー社によって作られ、それは19世紀後半に遡る。初めはチャンセルの北袖廊側に置かれていたが、後に大聖堂の西ギャラリーに移された。1929年にはロンドン/カルカッタのヒル、ノルマン、ベアードによって修繕されたものの、湿気とロフトが開放的であることから、1970年初頭の演奏を最後とすることになった。その後2007年には新たに4マニユアルのロジャースのコンソールが加えられた。その直後に元々のギャラリーオルガンのパイプ・ストップの幾つかを修理するためイギリスに送られ、イギリスのMPOSスワントン・モーレー社の手で電気部分が整った

エピファニー・チャペル

大聖堂の南東にあるこのチャペルには元々の会堂にあった幾つかの記念物がある。左壁の小さな窪みにある聖具棚は病人や自宅療養者のための聖餐式に使うパンとワインを保管する場所である



西門と4つの福音書を書いた人たち

大聖堂の正面入口は西門である。その上にはパイプオルガンのギャラリーと鐘楼、高さ63.1メートルにも上る尖塔がある。西門上方のステンドグラス窓には、4つの福音書を書いた人たち（マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネ）が描かれており、大聖堂の設計者コロネル・ロナルド・マクファーソンを記念して作られたものである





カテドラル・ニュー・サンクチュアリ

2003年に当教会は既存の大聖堂の建物に加えて増築する「クワイエットプレース（静まる場所）のプロジェクト」を立ち上げた。増築にあたって「古きを尊重しつつ新しいものを作る」という現代風アプローチを採用した。地上1階、地下2階建ての新会堂は2005年に完成し、カテドラル・ニュー・サンクチュアリ（大聖堂新会堂）と名付けられた。この建物の中には、880席ある地下礼拝堂、祈りのホール、チャペル、中庭とアンフィシアター、地上階には地下鉄シティーホール駅と、元々の教会建物に屋根付き通路で連結しているウェルカムセンターがある。この新会堂の完成により当大聖堂は街の中心部にいるあらゆる人々の休息の場を提供することができるようになった。



聖書朗読台

礼拝中に聖書朗読台で聖書の言葉が読まれる。飛ぶ鷲が地球にとまった形をしているのは、神の御言葉が世界中で告げ知らされるべきもののだということを意味している。

大まかな歴史

1823 スタンフォード・ラッフルズ卿が教会建設のために現在地を選ぶ。

1834 シンガポールで最初の聖公会の教会の礎石が据えられる

1837 初代チャプレン、エドモンド・ホワイト牧師が初礼拝を執り行う

1838 セント・アンドリュース大聖堂の献堂式が行われたが、二度の落雷により危険とされ閉鎖される

1856 3月4日にカルカッタの主教ダニエル・ウイルソンにより現在の建物の礎石が据えられた

1862 1月25日にカルカッタの主教G.E.コットンにより現在の建物が奉献された

1870 セント・アンドリュース教会がラブワン・サラワク教区の司教座聖堂となる

1909 セント・アンドリュース大聖堂がシンガポール新教区の司教座聖堂となる。C.J.ファークソン牧師が初代シンガポール主教となる

1942 シンガポール陥落前、救急病院として使用される

1952 北翼廊の増築完成

1973 国の記念建造物に指定される

1983 南翼廊の増築完成

1989 洗礼場を建築する

1996 アングリカン・コミュニオンの第37地区として東南アジア聖公会が生まれる

2005 カテドラル・ニュー・サンクチュアリが完成

2009 シンガポール教区100周年

2012 セント・アンドリュースの建物奉献150周年記念

主に望みをおき尋ね求める魂に
主は幸いをお与えになる。
主の救いを黙して待てば、幸いを得る。
若いときに軛を負った人は、幸いを得る。
軛を負わされたなら
黙して、独り座っているがよい。
塵に口をつけよ、望みが見いだせるかもしれない。
打つ者に頬を向けよ
十分に懲らしめを味わえ。
主は、決して
あなたをいつまでも捨て置かれはしない。
主の慈しみは深く
懲らしめても、また憐れんでくださる。
人の子らを苦しめ悩ますことがあっても
それが御心なのではない。

哀歌3章25節～33節

